

災害復興過程におけるソーシャルキャピタル（＝ＳＣ）の役割

宋 金文

北京外国語大学北京日本学研究センター

要旨

問題意識

なぜＳＣなのか：

大規模災害の救助や災害復興に際して、制度的支援が重要（＝政府）

例えば、避難所の設置、医療チーム、被災者の応急支援、公共施設の復旧、産業復興計画の制定など

一方、地域住民、一般市民や企業などの社会全体に存在している信頼関係、ネットワークと助け合いの規範などが無視できない役割を果たしている。

例えば人命救助、被災者支援、さまざまなボランティア活動、寄付行為、心のケア、元気づけ、生活生産復興の情報交流など

かつては助け合い、お互い様、団結、凝集力などで表現されている＝ソーシャルキャピタル。

概念と研究課題

ソーシャルキャピタルとは“人々が何らかの行為を行うためにアクセスし活用する社会ネットワークに埋め込まれた資源”＝ナン・リン

個人所有のもの＝狭義

人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴である。＝ロバート・パットナム

“人々の間の協調的な行動を促す「信頼」「互酬性の規範」「ネットワーク」を指す”＝稲葉陽二

人々の間、社会に存在している＝制度化された公共組織以外＝公共財

基本視点＝個人の利益や社会の効率化につながる

課題 災害復興過程でどのような信頼やネットワーク、規範＝ＳＣが、どのようにして人々に利益をもたらしたのかを発生論と機能論的に検証したい。

内容：本論はこの両者の結合・分離が被災地の早期復興の成否につながる重要な要件であることを事例と通して説明したい。